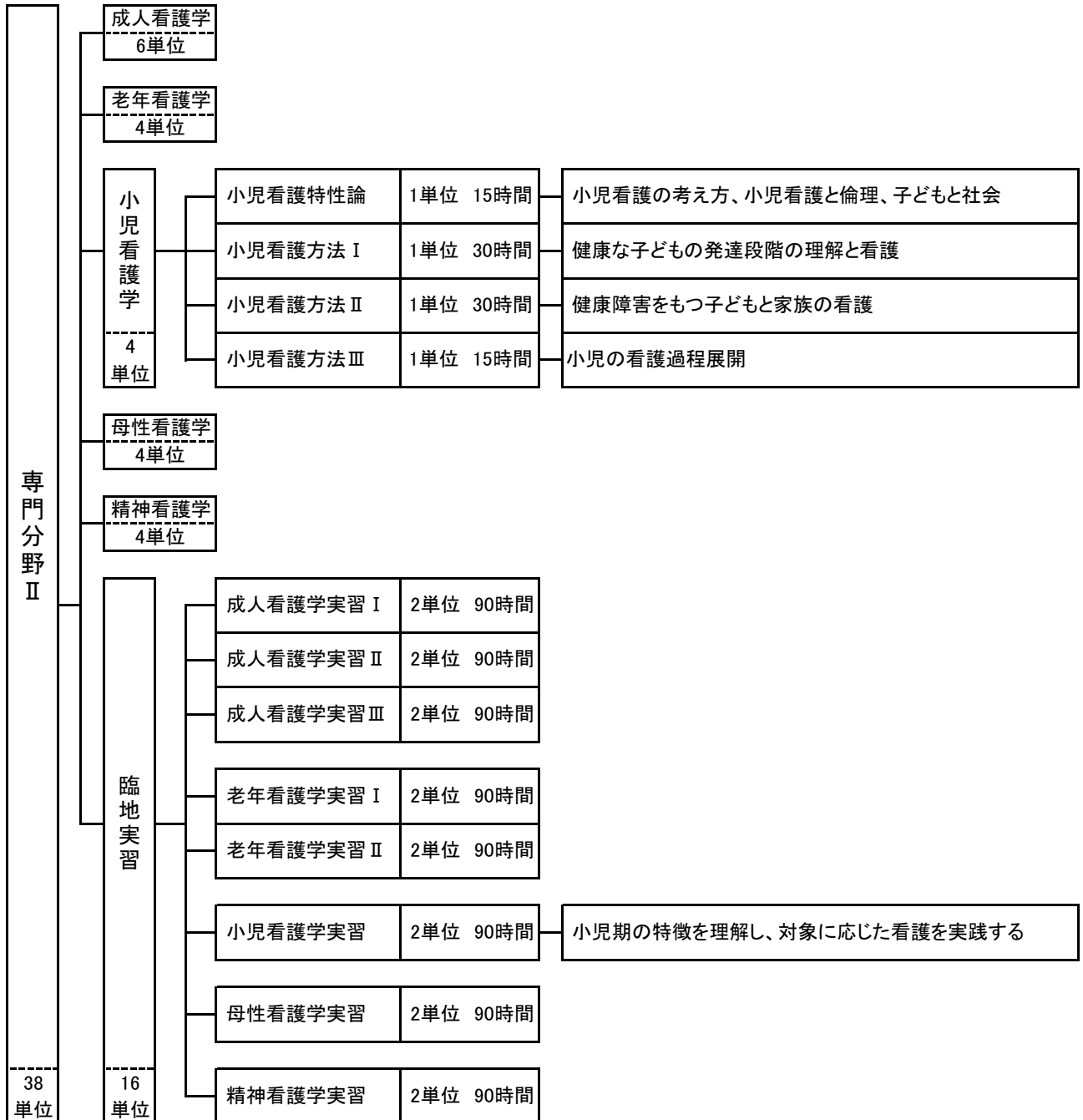


(4) 専門分野Ⅱ

【ねらいと構成】

人間は、家族の中に生まれ、育まれ、自立していく存在である。変化する社会の中で子どもの成長発達をうながすための子どもと家族への支援の実際を理解し、小児看護の役割を学ぶ。

また、子どもに健康問題が生じた場合に、子どもと家族に健康回復に向けた看護ができ、さらにこれまでの生活を振り返り、健康的な生活への視点がもてるような看護ができることをねらいとする。



科目群: 専門分野Ⅱ

2年度	授業科目	小児看護特性論	担当教員	鈴木 陽子 磯貝 真澄	単位(時間数)	1(15)
第1学年					担当時間数	15
【鈴木陽子】 授業科目に関連した実務経験の内容		看護師臨床経験16年				
実務経験を活かした実践的な授業内容		病院勤務(小児科病棟)での小児期にある子どもの看護の経験に基づいて、子どもを取り巻く環境や小児看護の考え方を講義・演習に取り入れている。				
【磯貝真澄】 授業科目に関連した実務経験の内容		保健師臨床経験37年				
実務経験を活かした実践的な授業内容		保健センターでの保健師の経験に基づいた講義により、母子保健活動實際を学ぶ。				
学習目的・目標	<p>目的: 子どもと家族の看護の概念を学ぶ。</p> <p>目標: 1.小児看護の対象、目的、特徴を理解する。 2.小児医療と看護の変遷を理解する。 3.小児の健康および小児看護を支える理念を理解する。 4.母子保健活動の實際を理解する。</p>					
回数	月日	学習内容	担当教員	方法	場所	教科書
1	/	小児看護の対象 小児看護の目的 小児看護の特徴と小児看護の変遷	鈴木	講義	教室	①②③
2	/	小児を取り巻く社会 ・現代社会の特徴から、子どもへの影響を考える	鈴木	グループワーク	教室	①②③
3	/	小児を取り巻く社会 発表	鈴木	グループワーク	教室	①②③
4	/	子どもの権利 「児童福祉法」「子どもの権利条約」	鈴木	講義	教室	①②③
5	/	子どもの倫理	鈴木	講義	教室	①②③
6	/	子どもの事故と事故防止 学校保健	鈴木	講義	教室	①②③
7	/	母子保健活動の實際	磯貝	講義	教室	①②③
8	/	試験	鈴木		教室	
評価方法	課題と試験で総合評価します。試験は45分で実施し、配点は課題点15点、試験85点です。					
教科書	①メディカ出版 ナーシンググラフィカ 小児の発達と看護 ②厚生統計協会 『国民衛生の動向』 2020/21年度版 ③医学書院 系統看護学講座 専門Ⅱ 『小児看護学概論 小児臨床看護総論』 小児看護学①					
参考書						
履修上の留意点	日常生活の中で子どもの様子を観察しましょう。 新聞やニュースでの小児に関する記事や報道に関心を持ちましょう。					

※実務経験は令和2年4月1日現在

科目群: 専門分野 II

3年度	授業科目	小児看護方法 I	担当教員	鈴木 陽子	単位(時間数)	1(30)
第2学年					担当時間数	30
授業科目に関連した実務経験の内容		看護師臨床経験16年				
実務経験を活かした実践的な授業内容		病院勤務(小児科病棟)での小児期にある子どもの看護の経験に基づいて、看護援助の具体的な方法を講義・演習に取り入れている。				
学習目的・目標	<p>目的: 小児各期の成長・発達の特徴と小児看護の特徴を理解する。</p> <p>目標: 1. 子どもと家族の関係から、小児看護における家族の位置づけについて理解できる。                  2. 小児の成長発達の原則及び評価について理解できる。                  3. 小児各期の成長発達の特徴と看護の特徴について理解できる。                  4. 健康障がいを持つ子どもと家族への看護について述べるができる。                  5. 疾病の経過と看護について小児の特徴を踏まえて述べるができる。</p>					
回数	月日	学習内容	方法	場所	教科書	
1	/	小児看護の対象と看護の特徴 子どもにとっての家族とは?	講義	教室	①③	
2	/	子どもの成長と発達 ~総論 ①成長・発達の原則 ②発育・発達の評価	講義	教室	①③	
3	/	乳児の成長・発達の特徴と看護① ~ 諸機能の発達の特徴を踏まえて	講義	教室	①③	
4	/	乳児の成長・発達の特徴と看護② ~ 諸機能の発達の特徴を踏まえて	講義	教室	①③	
5	/	幼児期の成長・発達の特徴と看護① ~ 諸機能の発達の特徴を踏まえて	講義	教室	①③	
6	/	幼児期の成長・発達の特徴と看護② ~ 諸機能の発達の特徴を踏まえて	講義	教室	①③	
7	/	学童・思春期の成長・発達の特徴と看護① ~ 諸機能の発達の特徴を踏まえて	講義	教室	①③	
8	/	学童・思春期の成長・発達の特徴と看護② ~ 諸機能の発達の特徴を踏まえて	講義	教室	①③	
9	/	病気や入院による子ども・家族への影響と看護①	講義	教室	①③	
10	/	病気や入院による子ども・家族への影響と看護② 事例展開	校内実習	実習室	①③	
11	/	病気や入院による子ども・家族への影響と看護③	講義	教室	①③	
12	/	疾病の経過と看護① ~急性期事例 小児看護の特徴として	講義	教室	①②③④	
13	/	疾病の経過と看護① ~慢性期事例 小児看護の特徴として	講義	教室	①②③④	
14	/	疾病の経過と看護② ~終末期事例 小児看護の特徴として	講義	教室	①②③④	
15	/	テスト、授業のまとめ	講義	教室	①②③④	
評価方法	課題と試験で総合評価します。試験は45分で実施し、配点は課題点15点、試験85点です。					
教科書	①医学書院 系統看護学講座『小児看護学概論 小児臨床看護総論』小児看護学① ②医学書院 系統看護学講座『小児臨床看護各論』小児看護学② ③メディカ出版 ナーシンググラフィカ『小児の発達と看護』小児看護学① ④講談社『子どもの病気の地図帳』					
参考書						
履修上の留意点						

※実務経験は令和2年4月1日現在

科目群: 専門分野 II

3年度	授業科目	小児看護方法 II	担当教員	鈴木 陽子	単位(時間数)	1(30)
第2学年					担当時間数	30
授業科目に関連した実務経験の内容		看護師臨床経験16年				
実務経験を活かした実践的な授業内容		病院勤務(小児科病棟)での小児期にある子どもの看護の経験に基づいて、看護援助の具体的な方法を講義・演習に取り入れている。				
学習目的・目標	<p>目的: あらゆる健康段階にある子どもと家族への看護を理解する。</p> <p>目標: 1. 病気や入院が子どもとその家族へおよぼす影響について理解できる                  2. 子どもの検査・処置における看護者の役割と援助について述べる事ができる                  3. 病気をもつ子どもの症状と状況のアセスメントの視点と看護について述べる事ができる                  4. 子どもと家族の視点から必要な看護について考える事ができる</p>					
回数	月日	学習内容	方法	場所	教科書	
1	/	1. 小児看護の目標 1) 外来の特徴と看護の役割 2) 入院中の子どもと家族の看護	講義	教室	①②③	
2	/	2. 症状を示す子どもの看護①	講義	教室	①③④⑤	
3	/	症状を示す子どもの看護②	講義	教室	①④③⑤	
4	/	3. 検査・処置を受ける子どもの看護 説明と同意(プレパレーション)	講義	教室	①②③⑤	
5	/	検査・処置を受ける子どもの看護	講義	教室	①②③⑤	
6	/	4. 子どものアセスメント	講義	教室	①②③	
7	/	子どもとその家族とのコミュニケーション技術	講義	教室	①③⑤	
8	/	5. アレルギー疾患・呼吸器疾患と看護	講義	教室	①②③	
9	/	6. 感染性疾患・循環器疾患と看護	講義	教室	①②③	
10	/	7. 神経疾患・運動器疾患と看護	校内実習	実習室	①②③	
11	/	8. 腎・泌尿器疾患・悪性新生物と看護	講義	教室	①②③	
12	/	9. 事故と外傷の看護	講義	教室	①②③④	
13	/	10. 低出生体重児の看護	講義	教室	①②③④	
14	/	11. 発達障害のある子どもと家族への看護	講義	教室	①②③④	
15	/	12. 試験、授業のまとめ	講義	教室		
評価方法	課題と試験で総合評価します。試験は45分で実施し、配点は課題点15点、試験85点です。					
教科書	①医学書院 系統看護学講座『小児看護学概論 小児臨床看護総論』小児看護学① ②医学書院 系統看護学講座『小児臨床看護各論』小児看護学② ③メディカ出版 ナーシンググラフィカ『小児の発達と看護』小児看護学① ④講談社『子どもの病気の地図帳』 ⑤インターメディカ『写真でわかる小児看護技術』					
参考書						
履修上の留意点						

※実務経験は令和2年4月1日現在

科目群: 専門分野 II

3年度	授業科目	小児看護方法Ⅲ	担当 教員	鈴木 陽子	単位(時間数)	1(15)
第2学年					担当時間数	15
授業科目に関連した実務経験の内容		看護師臨床経験16年				
実務経験を活かした実践的な授業内容		病院勤務(小児科病棟)での小児期にある子どもの看護の経験に基づいて、看護援助の具体的な方法を講義・演習に取り入れている。				
学習目的・目標	<p>目的: あらゆる健康段階にある子どもと家族への看護を理解する。</p> <p>目標: 1. 病気や入院が子どもとその家族へおよぼす影響について理解できる                  2. 子どもの検査・処置における看護者の役割と援助について述べるができる                  3. 病気をもつ子どもの症状と状況のアセスメントの視点と看護について述べるができる                  4. 子どもと家族の視点から必要な看護について考えることができる</p>					
回数	月日	学習内容	方法	場所	教科書	
1	/	1 小児の看護過程の展開の特徴 2 事例の提示: 4才3か月 ネフローゼ症候群 急性期 3 小児を理解するために必要な情報 4 事例の発達段階・形態的、機能的特徴	講義	教室	①②③④	
2	/	1 ネフローゼ症候群の病態生理、治療 2 上記1の知識を使って患児の全体像を把握する	講義	教室	①②③④⑤	
3	/	1 関連図とは 2 キーワードの抽出をする	講義	教室	①②③④⑤	
4	/	子どものアセスメントの特徴① ゴードンの機能的健康パターン 記録用紙<3-3>	講義	教室	①②③④⑤	
5	/	子どものアセスメントの特徴② ゴードンの機能的健康パターン 記録用紙<3-3>	講義	教室	①②③④⑤	
6	/	事例に必要な看護援助を考える 看護計画立案	講義	教室	①②③④⑤	
7	/	実施、評価 発熱による苦痛を軽減する看護	講義	教室	①②③④⑤	
8	/	実施、評価	講義	教室	①②③④⑤	
評価方法	課題評価とする。					
教科書	①医学書院 系統看護学講座 『小児看護学概論 小児臨床看護総論』 小児看護学① ②医学書院 系統看護学講座 『小児臨床看護各論』 小児看護学② ③メディカ出版 ナーシンググラフィカ 『小児の発達と看護』 小児看護学① ④講談社 『子どもの病気の地図帳』 ⑤インターメディカ 『写真でわかる小児看護技術』					
参考書						
履修上の留意点						

※実務経験は令和2年4月1日現在